

## 1. J S L 「英語科」開発の基本的な考え方

### 1. J S L 英語科の必要性

J S L カリキュラムにはたして英語科は必要か。今回、J S L カリキュラムの開発にあたり、まずこの問題を検討することから出発した。「母語と英語と日本語の3つをどのように関連づけるか」「英語の学習に日本語を介在させることにどれだけ意味があるか」、あるいは「英語で英語の授業を進めるという方法では、日本語を介在させる意味があるのか」、等々の問題である。J S L カリキュラムは、あくまで日本語で授業に参加できる力を育成することが目的であるため、英語科の必要性に関しては会議でも多様な意見が出た。そこで、中学校、教師に対して日本語を母語としない生徒の英語の指導や英語学習の困難がどこにあるかの調査から開始した。

この調査からは、**多くの学校や教師が日本語を母語としない生徒の英語の指導に多くの困難を抱えているという実態**が浮かび上がってきた。この事実を踏まえ、J S L カリキュラム英語科の開発に踏み切った。特に、多くの中学校では、まだ「日本語による英語」の授業が大半であり、英語の授業に参加するための日本語の力の育成が必要であると考えたためである。**J S L 英語科は、英語の授業に日本語で参加する力を付けること**をねらっている。日本語を母語としない生徒の生活歴、学習歴、言語能力等はたいへん多様であり、特に英語力には幅がある。日本語の力が十分で英語の力が不十分な生徒であれば、日本の中学生とほぼ同様の指導が可能であり、生徒も通常の授業に参加することができる。英語の力があり、日本語の力が不十分な生徒に対しては、英語力をいかした指導が可能であり帰国生徒教育等で指導方法の工夫がなされている。しかし、日本語の力も英語の力も不十分な生徒に対する指導については、その指導に苦慮している。そこで、**日常よく使う日本語により英語科で学習する概念を把握した上で、英語の授業についていける力の育成**をめざした。

ただし、ここで注意を要するのは、日本語で英語学習を進める際の生徒の母語による干渉である。例えば、過去形では、日本語の「書く－書いた」と「write-wrote」を比べ、過去形について概念を把握させようとする場合、中国語では動詞そのものの形は変わらず、過去を意味する語を添えることで、その文が過去であることを示す。このような場合、「過去」という意味は分かっても「過去『形』」という概念を理解するには時間がかかる。したがって、すべての生徒に対して一律に指導するのではなく、きめ細かな支援が不可欠である。このように、日本語で英語学習に関わる概念を把握させる場合、「母語ではその概念がない」ということも考えられるため、授業をきめ細かく組み立てることで対応する必要がある。

### 2. J S L 英語科が対象とする生徒

J S L 英語科で主たる対象にするのは、**ある程度日本語で日常的な会話ができ、かつ英語の力が不十分な生徒**である。日常よく使う日本語により英語科で学習する概念を把握し、英語の授業についていけるようにするには、ある程度、日常生活に関する日本語ができることが必要なためである。J S L 英語科のねらいは、こうした生徒に英語の運

用能力を高めることと同時に、メタ言語能力の育成をはかることにある。

### 3. J S L 英語科の基本的な考え方

#### (1) 重要な学習言語事項の設定

J S L 英語科では、①**重要な学習言語事項**を設定すること、②その**事項を習得する上で最も効果的なクラス・アクティビティ**を選択すること、次に③「**導入→ルール**の定着→**運用**」という**授業の流れに即した学習支援と日本語支援**について明確化すること、という手続きのもとに開発を進めた。これらを踏まえて、具体的に「**学習指導案**」の形で提案した。以下、項目ごとに説明していく。

J S L 英語科の重要な学習言語事項は、学校や教師が英語の指導において困難を抱えている言語事項を調査しその結果をもとに抽出した。つまり、**生徒が所属する通常の学級で日本語を母語とする生徒と一緒に授業を受けるだけでは習得できない言語事項**を、英語科の重要な学習言語事項として設定した。それが次の6項目である。

- (1) 時制
- (2) 不定詞
- (3) 比較構文
- (4) 受け身
- (5) 関係代名詞
- (6) 分詞

この6つの言語事項について、日本語を母語としない生徒に特別な授業（「取り出し」）を行うことで、通常の英語の授業についていけるようにすることがねらいである。ただ、指導形態は、各学校の実情に応じて柔軟に対応してほしい。

#### (2) クラス・アクティビティ

**重要な学習言語事項を習得するためには、どのような活動がふさわしいか**を検討することが次の課題である。英語科では、通常の授業においても多様な活動を導入しているが、J S L 英語科においても、そうした活動を積極的に導入することにした。生徒が通常の英語の授業に参加するためには、日常的な活動に参加できることが必要なためである。ここでは、それらをクラス・アクティビティと呼び、おおよそ以下のような活動を設定した。

- ① Pattern Practice
- ② Quiz
- ③ Game
- ④ Show and Tell
- ⑤ Skit
- ⑥ Story-Telling
- ⑦ Role Play
- ⑧ Drama
- ⑨ Interview

- ⑩ 単文づくり
- ⑪ 英作文
- ⑫ 単文の読解

実際の授業ではこのうちどれか1つではなく、いくつか組み合わせることになる。しかも、重要な学習言語事項に応じて、より効果的と思われる活動を選択することが肝要である。

### (3) 授業の流れ

J S L 英語科では、授業の流れを「導入→ルールの定着→運用」の3段階にした。「導入」では、まず、日常的に使う日本語で重要な学習言語事項の概念を把握することに主眼をおいた。例えば、「受け身」の授業では、生徒が日常的に接し、使用している表現を通して、「受け身」の概念を生徒が習得できるようにする。「壊す」－「壊される」、「噛む」－「噛まれる」、「食べる」－「食べられる」、「叱る」－「叱られる」といったように、日本語で「受け身」という概念を把握するのが「導入」の段階である。ただこの段階で、生徒の母語ではそうした概念がないことも考えられるため、配慮の必要がある。

「ルールの定着」は、クラス・アクティビティの中から、重要な学習言語事項の習得に最も効果的なものを選び、その活動を通して日本語で理解した概念を英語におきかえ、それを定着させる段階である。具体的には、「モデル文の提示」「リピート」「代入」「状況練習（口頭作文）」といった流れで授業を進める。

「運用」は、定着したルールを実際に運用できるようにする段階である。ここでも、クラス・アクティビティから、最も効果的な活動を選び、生徒の運用力を高めることをめざす。例えば、「スキット」を導入した場合、写真や絵などによるスキット場面・状況の理解、モデル会話の提示、モデル会話の練習、スキットづくり、スキットの発表といった流れで授業を進める。なお、ここでは、J S L 生徒が自分の母語や母国について肯定的にとらえることで自分達の肯定的な自己概念を形成できるようにするため、生徒のアイデンティティやエスニシティに関連する内容を取り入れた活動も提案した。

### (4) 学習支援

J S L 英語科の学習支援としては、他教科と同様に、①具体物の提示・生徒の既習事項との関連づけ、②授業のスマールステップ化、そして③日本語による支援の3つを挙げることができる。

「導入」では、日常的に使われる表現や具体的な場面や状況を提示し、日本語で重要な学習言語事項の概念を把握できるような日本語の支援が必要である。特に、日本語の「理解支援」を重視する必要がある。また、具体的な場面や状況が把握できるように、写真や絵カードなども効果的な支援方法である。

「ルールの定着」では、学習のスマールステップ化が必要である。特に、「モデル文の提示」では、すぐに英語のモデル文を示すのではなく、「導入」で把握した概念を日本語で確認した後に英語に置き換えるといった段階を踏まえる必要がある。「リピート」「代入」「状況練習（口頭作文）」でも、生徒の理解度に応じた支援が必要になる。こうした

段階では、理解を促すために、生徒が理解しやすく、分かりやすい日本語で指示したり絵や写真などで視覚に訴える方法で支援したりすることが重要になる。

「運用」も同じように、できるだけ写真や絵などで生徒の理解を促す必要がある。また、「運用」を高める活動でも、分かりやすい日本語で助言したり、理解を促したりする支援が不可欠であり、さらには、理解したことを日本語で表現できるようにする「表現支援」も重要になる。

学習支援の具体は、重要な学習言語事項ごとの学習指導案に、「導入」→「ルール of 定着」→「運用」の各段階のスマールステップ化と具体的な支援の方法という形で示したので、それらを参照してほしい。

#### 4. J S L 英語科の授業づくり

J S L 英語科の授業を組み立てていく上で、配慮すべき点を以下に示す。実際は、各言語事項の学習指導案例を参照してほしい。

第 1 は、重要な学習言語事項の概念を理解させるための工夫である。もっとも重要な点は、「分かりやすい日本語表現の工夫」「日常的な場面や状況の設定」「絵や写真などの提示」である。抽象的な概念であるため、生徒がすでに持っている知識や概念と関連づけるといった点も考慮したい。

第 2 は、重要な学習言語事項ごとに相応しいクラス・アクティビティを選択し、それを効果的に組み合わせることである。実際には、「日常の英語の授業でよく使われる活動」や「日本語の力が十分でなくても参加できるような活動」を選択したい。J S L 英語科の目標は、日常の英語の授業に参加できるようにすることであり、その意味でも通常の授業でよく使われる活動を導入したい。

第 3 は、ルール定着のための活動である。これは、クラス・アクティビティを通して日本語で理解した概念を英語におきかえ、それを定着させる段階であり、定着させるには、きめ細かな配慮が必要である。そこで重要になるのが、授業の「スマールステップ化」と「各ステップの支援方法（学習支援と日本語支援）の提案」である。具体的には、学習言語事項ごとの学習指導案例を参照してほしいが、モデル文のパターンプラクティスでは、まず日本語で概念を説明したり、パターンプラクティスでも写真を多用したりすることで、生徒の理解を促すよう配慮したい。また、生徒の理解を促すため、学習内容を図解したり、学習の流れが理解しやすいようにビジュアル化したりする工夫も大切になる。

第 4 は、運用のための活動（スキット、ロールプレイ等）の工夫である。学習した内容を実際に活用できるようにするためには、適切な活動を導入し、しかもその活動を通常の授業よりもきめ細かくすること、そして、具体的な支援方法（学習支援と日本語支援）を明確にすることが必要である。今回、生徒の運用力を高めるためのワークシートも学習指導案に示したので活用してほしい。

また、このカリキュラムでは、日本語を母語としない生徒のアイデンティティやエスニシティに関連する内容について配慮した。学校で学習意欲を高めるには、生徒の肯定的な自己概念の形成が不可欠である。そのため、英語学習を通して生徒のエスニシティ

や母文化に配慮しつつ、英語の運用能力を付ける工夫をした。「発展」として、生徒の母国や母文化に関する内容を取り入れたが、ここで示した例を参照にして、生徒の実態に合うようにさらに工夫してほしい。

## 5. 学習指導案の見方・使い方

学習指導案は、「時制」「不定詞」「比較構文」「受け身」「関係代名詞」「分詞」の6つの重要な学習言語事項ごとに示した。まず、実践していく上で必要な情報を示した。「クラス・アクティビティ」では、その学習言語事項を習得する上で、どのような組み合わせのパターンが有効かを示した。「対象とする生徒」では、授業を具体的に進めることができるように主に日本語力と英語力を中心に記してある。この対象は授業を進める際の目安であり、実際には目の前の生徒の状況に応じて授業の流れや活動の組み立て方を工夫してほしい。「ねらい」は、重要な学習言語事項（単元）の目標であり、具体的な行動レベルで設定した。したがって、評価もこの「ねらい」に即して行うことになる。また、「授業時間数」は、あくまでも1つの目安であり、個々の生徒の実態や学校の状況等により柔軟に対応してほしい。

実際の授業は、「学習活動」を中心にして、その活動ごとに「教師の指導」を設定した。ここでは、通常の授業よりも指導の観点をきめ細かに設定した。さらに、JSL英語科の特徴として、「学習支援・日本語支援」を付け加えている。他の教科同様に、日本語支援については「表現支援」「理解支援」、さらには「記憶支援」に分けて、具体的な支援策を示したが、実際の授業ではこの3つを分けることができないため、明確に切り分けできないことも配慮してほしい。ただ、授業の各場面で、生徒の理解を促したいとき、あるいは理解した内容を表現させたいときに、それぞれの支援を意図して行うことが大切であり、そのために観点として示したものである。

ここで示した学習指導案は、あくまでも例示でありこのまま実践すればいいというものではない。個々の生徒や各学校の実態に合わせて授業作りのツールとして活用してほしい。生徒の日本語力と英語力、学校で「取り出し」指導が可能かどうかといった実情に応じて、「ねらい」と指導計画をたて、実際の「学習活動」を組み立てていくことになる。特に、どのように学習活動をきめ細かくしていくか、指導の観点はどこにあるかといった点を参考にしてほしい。指導の観点や支援策を考慮するとき重要になるのが、生徒が活動できないことを想定し、どのような指導や支援をすればその活動ができるようになるかを考えることである。この学習指導案例では、生徒が理解できない場合を想定し、授業をきめ細かく組み立てて、理解や表現を促す支援の手だてを示した。このように、ここで示した学習指導案例は、JSL英語科の授業づくりのツールとして活用できるものである。

## 6. 付属資料の使い方

JSL英語科では、「教室での英語による指示等の例」「文法用語等一覧」「テスト等でよく使われる表現」の3種類の付属資料を付けた。英語と日本語だけでなく、6つの言語による対訳を付けてある。これは、具体的に指導者と生徒にとってどのように使うか

の例を示した。これにとどまらず生徒一人ひとりの実態に合わせて多様な使い方を工夫してほしい。ただ、J S L 英語科は、このことばだけを切り取って教えるのではなく、授業に参加していくことが目的である。したがって、この資料は授業に参加するための手がかりとして使うものであることに留意してほしい。

(1) 「教室での英語による指示等の例」

- ① 英語での指示は、在籍学級で頻繁に使用される指示ことばに生徒が「取りだし指導」の段階で予め活動になれておくことで、授業にスムーズに参加できるようにするために使う。
- ② 英語を専門とする教師以外が J S L 英語科を指導する場合には日本語の表現を参照する。
- ③ 5 言語の対訳については、指導者にとっては、生徒が英語と日本語での指示内容をしっかり理解しているかどうかの目安として使う。

(2) 「文法用語等一覧」

- ① 英語を専門とする教師以外が J S L 英語科を指導する場合に、文法用語とその例文の確認のために使う。
- ② 生徒に既習事項と未習事項の自己チェックとして使う。
- ③ 指導者の指導チェックリストとして使う。
- ④ 5 言語については、日本語と英語の理解を促すために使う。

(3) 「テスト等で使われる表現」

- ① 生徒にテスト等でよく使われる表現になれさせるために使う。
- ② 5 言語については、生徒に指導者が母語で指示を与える場合の資料として使う。

指導案の具体的な活用例

【指導案例】 **生徒が所属する通常の学級で日本語を母語とする生徒と一緒に授業を受けるだけでは習得できない言語事項です。**

|  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| <p>○重要な学習事項：分詞（過去分詞）</p> <p>○クラスアクティビティ：Pattern</p> <p>○関連する既習事項：受動態、関係代名詞、分詞（現在分詞）</p> <p>○ねらい：分詞</p> <p>○取り出し時間：1〜2時間程度の計画</p> | <p>この学習事項を学習するために適切な活動を示しました。</p> <p>JSL生徒にとってのねらいです。</p>             | <p>この事項を学習するにあたり必要な関連事項です。つまりいている生徒には、この事項をあわせて指導してください。</p>   |  |
| <p>学習過程</p>  | <p>学習活動</p> <p>○Warming Up</p> <p>この時間に関連する事項について、生徒に関心をもたせる活動です。</p> | <p>指導の流れ</p> <p>おおよその目安です。各学校の実情にあわせて工夫してください。</p> <p>（例）make : made    play : played    read : read    speak : spoken<br/>         write : written    use : used    take : taken    produce : produced<br/>         （この単語カードは運用の（1）で使用）</p> <p>○(2) ビンゴゲームで上記の過去分詞を含んだ過去分詞形を確認する。</p> <p>ゲーム等、生徒の興味を引き付けるよう工夫してください。</p> <p>○(3) 取り出し時間には、指導者が動詞の原形を言い、いくつかの生徒にビンゴゲームで過去分詞形を確認する。<br/>         (1)の動詞は運用で使用するので必ず入れる。</p> <p>上記の Warming Up の活動を生徒の実態に合わせて選択する。</p> | <p>日本語支援</p> <p>ここでは、学習支援と日本語支援を明確に分けていません。授業では、両者を一体化させて行っていくためです。ただ、授業の各場面で、生徒の理解を促したいとき、あるいは理解した内容を表現させたいときに、それぞれの支援を意図して行うことが大切であり、そのため支援の観点として示したものです。これを参考にして多様な支援を工夫してください。</p> <p>[記憶支援]</p> |

○ 絵を使って導入する。

カメラの絵  
日本  
(make)

T : This is a camera. どこでつくられたのかな。

S : 日本 (Japan)

T : 英語の文で言うと、どうなるかな。

This camera (It) ~.

S : This camera (It) was made in Japan. (支援の欄参

ここに示すように、できるだけ具体物をもとに授業を進めてください。

学習の流れが、もっと細かくなるよう配慮しましょう。

T : 2枚のカードに This is a camera. と This camera (It) was made in Japan. の2文を書き、教師についてそれを音読練習させる。

次の2文をカードで示す。「これはカメラです。」

「このカメラ(それ)は日本で作られた。」

の2つの文を1つにするとどうなるかな。

これは (日本で作られた) カメラです。」

● (支援の欄参照)

の日本語の英語表現をカードで示す。

|                   |                 |                |
|-------------------|-----------------|----------------|
| This is a camera. | This camera was | made in Japan. |
| ①                 | ②               |                |

(①のカードを②のカードの線まで重ね、教師の後について繰り返す。)

(例) 運用 (1) を使って、文修飾を何度も聞かせ理解させる。

「これは自動車です。」 「この自動車は日本で作られました。」

「これは日本で作られた自動車です。」

「これはバナナです。」 「このバナナはフィリピンで作られました。」

「これはフィリピンで作られたバナナです。」

● (支援の欄参照)

○受動態の理解度により、be 動詞+過去分詞の使い方とその意味の確認にもどる。(理解が足りないときは受動態の指導案を参照)

「記憶・理解・表現支援」

形成的な評価が大切です。この学習事項が理解できない場合は、関連事項にもどり学習を進めるよう心がけてください。

● カメラを文(日本で作られた)が修飾していることに気づかせるように

に言

● はJSL生徒にとって特に必要な支援を示しました。これをもとに授業をきめ細かく組み立てるように工夫してください。

表

○既習の関係代名詞を使った表現 This is a camera which was made in Japan.(既習の関係代名詞)の文を提示して、意味が同じであることに触れる。

「記憶支援」



○ Pattern Practice

クラスアクティビティです。いくつか組み合わせることにより効果がでます。通常の授業で使うアクティビティを導入してください。

○ 輸入されたお菓子などの身近なものを用意して、パターンセンテンスに当てはめて言う練習をする。

パターンセンテンス:

This is a (   もの   )( 過去分詞 ) in (   国   ).

- ・ (モデル文の提示) ブラジル産のコーヒーを見せながら  
This is / a coffee / made / in Brazil. ● (支援の欄参照)
- ・ (リピート) 小さいまとまりから大きいまとまりへ  
in Brazil → made in Brazil → a coffee made in Brazil  
→ This is a coffee made in Brazil.
- ・ (代入) 用意したものを示しながら  
This is a ( A ) made in ( B ).  
A : candy, chocolate, biscuit, cookie, tea, coffee,  
B : China, Peru, Vietnam, the Philippines , Brazil

(モデルの提示)  
(リピート)(代入)と、三つのアクティビティを導入しました。

○ 英文の構造を板書する

This is a cookie. + This cookie was made in China.

This is a cookie which was made in China. (関係代名詞の用法)  
(過去分詞)[一された]

This is a cookie made in China. (分詞の用法)

(日本語)  
これは中国で作られた クッキーです。

● (支援の欄参照)

○ できるかぎり生徒の母国のものを用意する。

[情意支援]

日本語を母語としない生徒のアイデンティティやエスニシティに関連する内容について配慮してください。学校で学習意欲を高めるには、生徒の肯定的な自己概念の形成が不可欠です。そのため、英語学習を通して生徒のエスニシティや母文化に配慮しつつ、英語の運用能力を付ける工夫が重要です。ここでは母国に配慮しました。

○

代名詞と同じ働きであることを説明する。関係代名詞を使った表現と分詞を使った表現は意味は同じであることを日本語訳をさせるときに確認する。生徒の理解度によっては関係代名詞(指導案参照)の確認にもどる。

[理解支援]

● 日常的な日本語では「中国で作られた」ではなく「中国で作った(中国製の)クッキー」という言い方をすることによっておく。

[表現支援]

生徒の英語運用力をのばすための活動です。この時間に最も適切な活動を選択してください。

○ プリントに示された語句を結び付けて、過去分詞の後置用法を使った英文を作成させる。上記のパターンセンテンスを提示する。

|         |         |       |
|---------|---------|-------|
| ① 自動車の絵 | make    | 日本    |
| ② バナナの絵 | produce | フィリピン |
| ③ 中国服の絵 | make    | 中国    |
| ④ サンバの絵 | take    | ブラジル  |

● (支援の欄参照)

- ① This is a car made in Japan.  
これは日本で作られた (日本製の) 車です。
- ② This is a banana produced in the Philippines .  
これはフィリピンでとれた (フィリピン産の) バナナです。
- ③ This is a Chinese wear made in China.  
これは中国で作られた (中国製の) 中国服です。
- ④ This is a picture taken in Brazil.  
これはブラジルで撮られた写真です。

まず、生徒に概念を理解させておくことが大切です。

・絵を見て、ペアワークを行う。  
(NEW CROWN ENGLISH 3 p.51, 三省堂 2003 年)

● (支援の欄参照)

ペアワークは、両方の役割ができるように配慮してください。日本語を母語としない生徒の場合、ペアをどう組み合わせるかにも配慮してください。

○ (2) 絵を見て英文を作る。  
単文づくり

○ [運用] は生徒のレベルにあわせて次の活動のいくつかを選択して行う。(1) ~ (4)

○ 動詞を過去分詞形にして名詞を修飾できるかを確認する。  
Warming Up の単語カードを使う。 [理解支援]

● 生徒の理解度に合わせて日本語でのやりとりを英語表現の前に行っても可。(～された…)

○ 受動態の文と区別して表現しているかを確認する。 [表現支援]

(受動態の文)  
This car was made in Japan. This banana was produced in the Philippines . This Chinese wear was made in China. This picture was taken in Brazil.

● 生徒の理解度に合わせて絵の内容を日本語で言わせてから英語でのやりとり (口頭) をしても可。 [表現・理解支援]

○ 過去分詞が「～された…」という意味で前の名詞を説明する文型ができていることを確認する。 [表現支援]

- (3) 自己表出 Interview

この活動は特に JSL 生徒のエスニシティを尊重する活動です。自分の国などについて、生徒の実情に応じて、取り上げて自分から表現できるように配慮してください。

- ① It's a book read by many Japanese people.(多くの日本人に読まれている本)
- ② It's a map made in Australia.(オーストラリアで作られた地図)
- ③ It's a language spoken by some people in Kenya.(ケニアで話される言葉)

○ 自分の国の言葉について、この用法を使って英語で表現させる。

S1: The language spoken in Japan is Japanese.

S1: What is the language ( A ) in your country?

S2: The language ( A ) in my country is ( B ).

A : speak / use

B : Portuguese / Chinese / Spanish / Tagalog など

○絵を示しながら、現在分詞の後置用法を使って英語で表現させる。

(NEW CROWN ENGLISH 3 p.51, 三省堂 2003 年) ● (支援の欄参照)

(例)

Look at the boy playing soccer. He is Norio. (サッカーをしている男の子)

Look at the boy playing tennis. He is Takeshi. (テニスをしている男の子)

Look at the boy and girl singing a song. They are Masao and Emi. (歌を歌っている男の子と女の子)

○この活動は口頭練習で行う。1 文程度は日本語の意味を確認。理解度のチェックとして書くことを宿題にしても可。

[自律・理解・表現支援]

○ペアワーク 互いの母国について

自律支援とは、生徒が自己学習できるような支援です。このことで、生徒が家庭でも一人で学習できるようにしていくための支援です。

○この活動は現在分詞の後置用法

なので、生徒の理解度に合わせて取り扱う。家庭学習にしてもよい。

[自律・記憶・表現支援]

●英語表現の前に、日本語で内容確認を行っても可。

○現在分詞の後置用法は「～している…」というように名詞を修飾する。過去分詞の後置用法は「～された…」 「～されている」というように名詞を修飾する。この2つの用法の理解を確認する。

[記憶・表現支援]